

軌道交通4線を連携させた公共交通網の整備促進について（継続）

現在の交通インフラ整備につきましては、主に道路整備に重点が置かれているのが実状ですが、将来の桐生市の存続・発展を考えた場合、鉄道網の整備が必要不可欠であると考えられます。

幸いにも桐生市には、JR・東武鉄道・上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道の4線が乗り入れており、県内においてJRと私鉄が交差する市は数市しかないという恵まれた環境にあることから、これら4線を合流させた新駅をJR東日本下新田車輛基地付近に建設することは、桐生市の都市機能を向上させ、経済発展並びに観光客誘致等による活性化につながると思います。

また、おりひめバスの活用等により4線の駅を結ぶことや、おりひめバスの発着時間を電車の発着時間に合わせることにより、特に市外からの鉄道利用者の利便性向上を図ることを要望します

以上の理由により、これらを含めた公共交通網の整備促進につきましてはの調査・研究を推進されることを切望いたします。

桐生市からの回答

本市は、JR両毛線、東武鉄道、上毛電気鉄道及びわたらせ渓谷鐵道の4つの鉄道と15の駅によって形成され、恵まれた交通環境にあります。鉄道は大量輸送が可能であり、安全性・定時性に優れ、地球環境に優しい輸送機関として、通勤・通学やまちづくりなどに重要な役割を果たしております。

また、鉄道駅をつなぐ二次交通として、桐生地区においてはおりひめバスを、新里・黒保根地区においてはそれぞれデマンドタクシーを運行しております。

このような中、令和3年4月1日に全面改正をした、おりひめバスの新路線では、桐生市コンパクトシティ計画で示されている、駅を中心としたコンパクトな都市の形成を踏まえ、中心拠点（桐生駅周辺）と地域拠点（新桐生駅、相老駅）の接続性の向上を図るため、鉄道でつながれていない桐生駅―新桐生駅間の運行本数を片道17本から30本以上に充実させ、また、川内方面から相老駅までの直通路線を新設するなど鉄道路線と二次交通との接続強化を図りました。さらに、令和4年6月18日からは、東武鉄道「りょうもう号」との乗り継ぎ改善を目的に、中央幹線市役所系統のダイヤ改正を実施し、市外からの鉄道利用者の利便性向上を図ったところでもあります。

これからの軌道交通4路線の維持・発展のためには、交通・都市計画・観光行政などが一体となって取り組むとともに、二次交通とのつながりを充実させていくことが重要であり、まずは鉄道やバス等の利用促進につながる施策を、関係部局と連携して進めてまいりたいと考えております。

なお、4つの鉄道を合流させた新駅につきましては、都市機能の向上や本市の活性化につながる大変有効な施策ですが、莫大な財政負担を伴うことや現在の社会情勢などを考慮すると大変難しい課題であると考えております。

〔回答担当〕 共創企画部交通ビジョン推進室交通ビジョン推進担当